

感動新聞 平成22年2月号 発行者 細川栄一

皆様、お元気ですか？ 笑顔、元気が一番です。これからもよろしく願い申し上げます。
ビジネス経営の最前線で頑張っておられる方の役に立つ情報となればと思います。喜んで頂ければ幸いです。

足るを知る者は富む（老子）

「知足」と言います。

**自分が持っている幸せに満足する。分相応をわきまえて満足する。
与えられたものに満足する、ということです。
そして、今ある幸せを、幸せと感じられる人は、本当の意味で豊かな人である。**

現状に満足しては向上心や探究心がないのでは？
という声もあるでしょう。
しかし、まずは、己の今に感謝してから、次のステップへ進むことが大事なことで？と感じます。

良い点を考える時、自分ひとりの力でそうなったのではないことに気がつくことでしょう。
他の人からの恩恵、自分が置かれていた環境、運、もろもろの要素によって、現状があるのですね。
ですから、先ずそのことに感謝しなければなりません。
現状を軌道修正するとき、感謝の気持ちがあるのとないのでは、修正の仕方に大きな違いが生じてきます。
むやみに今を否定するのではなく、今の良い点を損なわないように、工夫するからです。

**「足るを知る」ことは、現状のままで満足するというのではなく、
今の幸せに感謝する、ということだと思ふのです。**

ですから、もっともっと上を目指す人や、軌道修正したい人は、現状に不満を感じるからそうするのではなく、今置かれている立場をしっかりと見極め感謝した上で、自分の可能性にチャレンジする、という気持ちが必要なのでしょう。

京都の龍安寺に「知足の蹲（つくばい）」がある。
丸い石の中央に「口」が彫られ、その四方を囲むように「五・佳・疋・矢」の四字がある。
「吾唯足知」（われ、ただ足るを知る）と読む。
蹲とは手を清めるために置かれた石製の手水鉢（ちょうずばち）。
手を洗う時「つくばう（しゃがむ）」ことからその名がある。
茶室の前に置き、客人が身を低くして手を清めたのが始まりという。

**幸せや満足感は、人との比較や、人に自慢するものの中にあるのではなく、
自分の心の中にあるもの、
という老子の教えは、ストレスを感じずにゆったりと生きるための処世術でもあります。**

「人生は心ひとつのおきどころ」中村天風

すべてのできごとは、本当の形とは別に、自分のころがつくりだす映像なのかもしれません。
素直な心で見なければ、真実に近い形をとらえることは難しくなります。
たとえ、醜いこと、苦しいこと、恨みに思うことがあっても、
美しいこと、楽しいこと、優しいことを考えていれば、心はいつも穏やかで静かでいられる。
（参考著書：人生をよりよくする人間形成術 東洋思想に学ぶ）